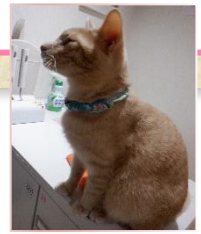


刑務所から農業法人経営者へ 全てのチャレンジャーに読んでほしい

御園生丈寛さん（千葉県）「失敗力」出版



にゃんこタイムズ

2020年5月1日

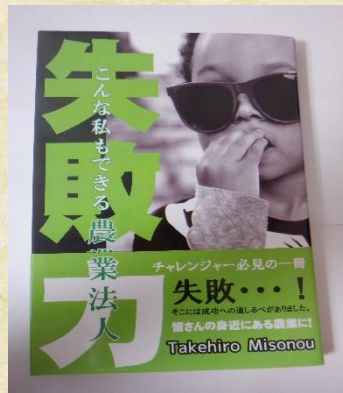
発行人
中條幸子
(りんどう国際事務所)

5月

千葉県長生郡で農業法人「(株)ファーストライフ」を経営する、御園生丈寛さん(36)が初めての著書「「失敗力」こんな私もできる農業法人(麻布書院)」Ⅱ写真Ⅱを出版した。刑務所で過ごした経験を経に経営者として再起、自らが人として変わった方法や今後の農業の可能性などをまとめた。

御園生さんは、「やんちゃ」な幼少期を経て、20代の前半から7年6か月、日本一厳しいといわれる川越少年刑務所(埼玉県)で生活した。長い受刑生活では一人部屋で過ごすことが多かった、という御園生さん。読書など自らと向き合う中で、自分を縛っているものは自分、また周囲からの支えを強く感じた、とい

「変える人になる！」を人生の目標に据え、まずは自らが変えることを決意。刑務所では全国でも数名しかいないといわれる成績優秀者(第1種・1類生)となり、日商簿記2級など数々の資格に合格。出所後は、ほぼ機能していなかった実家の農業を立て直し、会社設立後、わずか2年半で1億円の融資を受ける企業へと育てあげた。



現在は無農薬のリーフレタス3種類(マルヒメ・グリーン、マルヒメ・レッド、ハマフリル)を専門工場で栽培。安心・安全なブランドは、地元はもとより東京など首都圏の大型ホテルなどでも好評だ。

「失敗力」には、自らが大きく変化できたノウハウや、農業ビジネスのコツが満載されている。「失敗から得たもの、自分が実際に行動したこと、感じたことを素直に書きました」と御園生さん。また、今後の農業の可能性を具体的なデータや実体験を元につづっている。御園生さんは「食はなくてはならない。今後の日本に大きな夢を与える仕事。自分の知識や経験を多くの人に伝えたい」と話している。

【4・5面に
関連記事】

5月の
思い出

数年前の薫風の五月。お世話になっている法律家の先生(男性)が「友人の結婚式に呼ばれた」と嬉しそう。人はいいけど、おっちょこちょいな性格の先生。「いやあ、歌を披露することになったよ。練習したけどどうまくいくかな」とウキウキ。1週間後、先生はしょんぼりと肩を落としていた。「なんでみんな冷たい目を見たんだろう・・・谷村新司の昴(すばる)を歌ったのに・・・」。昴歌詞「我は行く 蒼白き頬のままで我は行く さらば昴よ」。先生、結婚式に「我」が「蒼(あお)白」く「さらば」じゃ、ダメじゃん・・・

ヨガから見える未来の世界

予想もしなかったパンデミックで続く自粛ムード。先の見えない不安をどのように生きるのか。

自身の人生をしなやかに受け入れ、ヨガを通して多くの人々を笑顔にしてきた、松村さちよ先生に聞いた。

松村さちよさんは、地元の東京都・清瀬市では“さち先生”の愛称で呼ばれるヨガインストラクター。さち先生がヨガを始めたのは自身の体調不良。「大学を卒業して病院の受付業務に。でも、3歳から患っていたアトピーと喘息（ぜんそく）が悪化して辞めなくてはいけなかったのです」。それからの3年間は漢方を試したり、療養所に通ったり。「自宅に引きこもりのようだった」という。

体調の改善を模索する中、知人の紹介で地元公民館のヨガに出会う。「高齢のご夫婦が主宰していました。しっかりとポーズをとる教室で。奥様から“あなたはヨガの先生になるべきよ”と言われて。体が柔らかいほうだったからかもしれませんけど・・・」とはにかむ。

健康を取り戻したさち先生。銀座の眼科に勤務したが、場所柄、外国人が多く訪れる病院だった。「周囲のスタッフは英語ができる。うらやましくて、くやしくて・・・」。決意したのは留学。ワーキングホリデーに応募したが「それが運命。その当時で27歳でしたから申し込みの上限年齢を超えていたんですね。ところが“アトピーと喘息で申し込めなかった”と理由書を送ったら、審査に通ったのです。病気に助けられたのですね」。

ロンドンに飛んださち先生を運命はなおも後押しする。のちに夫となるK氏との出会いだ。「彼はブラジル人。地元企業の倒産に巻き込まれて、親戚を頼ってイギリスへ来ていたのです」。渡英してわずか2週間後、音楽が好きなさち先生が行ったライブで隣にいたのがK氏。「ほとんど英語の話せない私に彼は音楽の話題などを振ってくれて。そのころ、私はロンドンの部屋を1箇月契約していたんです。彼に次に住むところを相談したら、ポーランド人夫婦と部屋をシェアしているから来ないか、と言われて、まあカップルになったわけです」。

K氏はITのエキスパート。ロンドンに渡ったころはレストランで清掃などについていたが、壊れた店のレジスターを一人で復旧させた手柄を買われ昇進。さち先生と会ったころは本部の正社員として活躍していた。「でも、彼が働いている間、私は家事をしているわけで・・・。私、ここに何をしにきたのかな、と」

「君はヨガができるのだから、やってみたら」。悩むさち先生に親身にアドバイスしたのはK氏だった。「イギリスのヨガは当時の日本でのものとは違って自由でした。音楽もロックがかかっていたり。楽しくて楽しくて毎日通っていました」。そして、1年間のビザが切れる時期に。「せっかく外国に行ったので、親に誇れる資格を取ろうかと。帰国まであと2箇月だったので、急いで探したところ、パリでプログラムが見つかって受講しました」

その後、K氏の地元・ブラジルで結婚式を挙げる。夫婦は日本の着物で参列者を迎えた。「近所の多目的スペースで開いたので、地元新聞は取材に来るし、知らない方もやってきて。私は着物姿でDJをやったり。自由なんですよ」とほほ笑む。



解放的な国。一方、そこで見たのはどんな過酷な状況でも生き抜く人々の力だ。許可もしないのに車の洗車をして代金を請求する、子供は止まった車の前でジャグリングをして“お菓子はどうですか？”と勧めてくる、ペットボトルを集めている人に至ってはコンビニでジュースを飲んでいる横に立っている。「なんでも仕事にできる。ものすごくたくましいんです」。

そのころ世界中を襲ったのは、リーマンショックだった。K氏が就職を予定していた大企業も例外でなく、採用は立ち消えに。しかし、窮地を救ったのは夫婦共通の趣味、音楽だった。「夫は地元のバーでDJを売り込んだり、富裕層向けのレストランでVDj(ビジュアルDJ)を披露したり。ついには、ロックフェスティバルにも出てテレビ中継されもしました」。激動の中、二人で力を合わせて生き抜いた。

しかし、ふと、さち先生を立ち止まらせたのは言葉の壁だ。「ヨガは自主練のみで、教える勇氣は無かった。ピラティス教室は沢山ありましたが、ヨガの知名度はかなり低かった。その上、ブラジルで日本人といえば”指圧ができる人”なんですね。頼まれてやってみたら、ものすごく喜んでもらえた。言葉が出来なくても仕事になる、整体のことをもっと勉強したいと思ったんです。帰国後、ヨガに最も近い、タイ古式マッサージの資格も取りました。」

夫婦でブラジルから日本へ。仕事はない、ゼロからのスタートだったが、K氏が言った。「さち、実家の物置きは広いスペースじゃない。ここでヨガ教室を開こう」。オープン当初は実家にあった色とりどりの毛布やK氏手作りの木のブロックを使った。「木のブロックは重くて。ちょっとお金がたまるとブランケットを買うとか、一つ一つそろえていったんですよ」。教室の電気設備、音楽施設等はK氏のお手製だ。

K氏は市場で野菜の荷下ろし係りとして日本の生活を始めた。当初は「ニンジン」という単語を追いかけることさえ精いっぱいだったが、地元ボランティアの助けを借りてわずか4か月で会話をマスター。今は日本の企業で最前線のIT技術者としての日々を送る。

オープンから11年。かつての生徒たちがインストラクターに成長し、クラスを任せることもある。さち先生は仕事を続ける秘訣を「自分が楽しい、ということがなにより」と言い切る。「無理してはダメ。週5日、4コマやっていたときは、まったく楽しくなかった・・・今は仕事という感じがしないほどです」

世界中で当面、自粛ムードが続く中、さち先生は自身の歩んできた道を振り返り、エールを送る。「コロナの今は、リーマンのころと似ているかもしれません。ヨガを通して学んだのは“受け入れる”ということ。考え方ひとつです。仕方ないことは仕方ない、今できる楽しいことを見つける。今に集中すれば、それが“あきらめない”という姿勢に通ずると思います」。



写真＝ブラジルの海岸でポーズをとる、さち先生

「失敗力」著者の御園生さんに聞く

「失敗力・こんな私もできる農業法人」を上梓したばかりの御園生丈寛さん。著作を書き進める思い、人とのつながり、そして世界中が非日常を過ごす今、社会はどのように動くか等をインタビューした。

①最初にお会いしたときの印象が鮮明です。白いシャツがさわやかで、日に焼け、笑顔を絶やさない。農業の将来について熱く語っていらつしやいました。そして、ついに「著書を初出版した、今の気持ちを聞かせください」

*今回、様々な方のご支援もあり、無事に出版をすることができました。本当にありがとうございます。

私は、書籍を読むことで学びまた助けられた時期がありました。そんな書籍を私が書くことで伝えられることはあるのだと考え出版を決意しました。それが大きな目標で今現実となりました。

今の気持ちとしては、とても実感はありません。きつと更なる目標があるからかもしれませんが、納得のいく一冊が完成したことは、とても嬉しく思います。

②本を書く上で一番苦労したことは何でしょうか？また、一番良かった、と思うことは何でしょうか？

*本を書く上で一番苦労したことは、やはり書き始めが一番苦しかったです。私の場合は、内容も定まらないまま出版することが目標だったので、どこまで自身のことを告白して良いのか非常に考えました。

また書き始めてからは、周囲はクリスマス、正月と賑わっている中で、ただひたすら書き続けることに一人寂しさもありました。しかし、ある程度進んだ時には、書かなくては罪悪感が出るほど習慣化されていました。単純にやり続けることは、苦しかったですね。それでもやりましたけど(笑)

そして良かったことは、私の書籍を読んで頂き伝えたいことが伝わった時、そしてヤル気が出たと実際に言われた時に達成感が出ました。本当に嬉しいですね。

③私が読んだ感想として、御園生さんが多くの人に幸せになつてほしい、というメッセージにあふれていると思います。このように人生の道しるべや、農業のノウハウを詳細に、かつ率直な自身の経験を踏まえて書かれた本はなかなか見ません。御園生さんが周囲の方々へ(ここまで深い思い(愛情)を向ける、その理由をお聞かせください)。

*私は、人の本質は愛だと感じたからです。生きていく上で、冷たく酷い出来事にも多く出会いました。そして、いつからか自分自身が率先して冷たく酷いことをしていました。もうあの時の自分には、戻りたくありません！

でも、不必要なミエやプライドをなくして素直に心で感じた行動が、そのようになっていくのかもしれない。本来は、みんな本当は人に対し愛情を向けているのだと思います。ただ何をしても良いのかわからない！ただ何かに追われて疲れているだけだと、私は感じます。当時、何もなくなつて気が付きました。

④御園生さんは著書の中で、繰り返し、仲間や周囲の人々とのつながりの大切さを書いていらつしやいます。他人というものは御園生さんにとって、どのように、またどのくらい重要な存在ですか？

*私にとっての人との関係性の重要性は、計り知れません！しかし、人との関係性の中で少なからず私自身が他人に影響を受けやすいことを自覚しています。だからこそ関わる人を判断しています。それは、オセロのように黒色と黒色の間に挟まれれば、黒になつてしましますし、チャレンジャーと関われば、知識も増えてチャレンジャーになれるのだと思えます。

そして、本当に大切な人を大切に一番の感謝をしたいです。それは家族であり、本当の仲間であり、近い関係の方、だからこそ発言する前に言葉を選びたいですね。

でも本当は、嫌いな人・許せない人にも 幸せになつてほしい！と考えられれば、自分自身も、もっと豊かな気持ちになれるのかもしれないね！まだまだ勉強中です。



非日常が起きたとき、人は変われる

⑤ 刑務所から出所し、御園生さんのように社会へ復帰される方、そうでない方がいると思います。何が違うのでしょうか？

*率直に自分を知らうと努力して、目標を固く決意するということではないでしょうか！

それは、自分を知らうと努力すれば謙虚でい続けられまし、目標がなければ進む方向すら分からないと思います。そして、自分また人との約束を守り続けられ、1日ずつ成長を積み重ねられます。

誰もが気がついているのだと思います。成長の大きな妨げになり得ることは、アルコールだと思えます。

当時の姿に戻ってしまいますし、やがて大きな決意すらなくなっていくのだと私は考えます。

自分を努力するということとは弱い部分を知り自制すること！結局そこにあると思えます！！

受刑中の朝、夕の15分の運動時間で布団から出て毎日運動し続けるという、あのようにな自分に負けない習慣を手に入れば再犯は、遠のいて行きそうですよね(笑)

⑥ 人生とは何か、と問うのではなく、自分自身が人生から問いかけてられているという一文が非常に印象的です。今の世界の人々はコロナ、という人類初めての困難を突き付けられ、まさに一人一人がその人生を問われていると感じます。一方、御園生さんが刑務所を出られたとき、実家は大変な状況でした。そこからやるしかない、と農業法人を立ち上げた。今の世界もコロナで大変な状況です。しかし、やるしかない、というとき、人は大変な力を出すと思います。これからの社会はやるしかないという人々の英知で良い方向へ変わると思えますか？

*はい！！大きく変わると思います。当たり前だった生活は、当たり前ではないと突きつけられた現在ですが、原点回帰となり得る事態でもあります。失敗また異常事態などの非日常が起きた時に人は変われると思えます。

緊急事態宣言が発令して自粛を余儀無くされていいますが見方を変えれば、受刑中の有り余る生活にも似ている部分もあります。この時間に何をするかによってアバターコロナの方向性は大きく変わり、とても重要な期間です。



【写真】 御園生丈寛さん。丹精込めたレタスを前に(千葉県長生郡の(株)ファーストライフ)

私が20代前半からの7年6月という受刑生活の中で、未来の自分を変えるために行ってきたこと、実際に社会に戻ってから短期間で農業資金1億円もの資金調達を実現したのも、7年6月での取り組みがあったからだ、自信を持って言えます。

周りではなく、私達が変わるために自分を知る、精細な目標設定をして行動計画を作り必ず達成するという信念を築く時だと思えます。

ここからは、私達一人一人が人生に証明する時代なのではないでしょうか！

今だからこそ、人類が一丸となりコロナに打ち勝ちたいと思えます！！

⑦ 農業を志す人々へ、そして自分が変わろうとしている方々へメッセージを

*農業！自分を変える！この2つは、私が長い期間を実践して追い求めてきたテーマです。

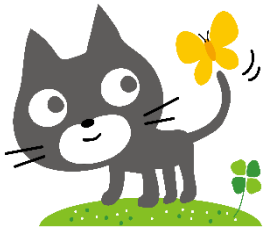
このテーマを追い求めた結果で書籍『突敗力！こんな私でもできる農業法人』を出版させていただきました。

何もなかった自分が生産農業法人を創業して、短期間で水耕栽培施設を建設し首都圏内に無農薬リーフレタスをお届けして続けています。農業には、耕作放棄地の増加！若い農業者不足！が深刻な問題となつていますが、そこに大きなチャンスがあります。そして誰もが身近に農業があり、そんなこれからの成長分野をとともに盛り上げて行きましょう。

そして自分を変えるには技術と方法がありました。なりたい自分を知らなければ、今までの人生と同じまま有限な時間だけが進んで行きます。だからこそ、行動して変わらなくてはならないのだと感じています。

今回出版させていただいた『突敗力！こんな私でもできる農業法人』には、成功ノウハウまた農業の可能性や資金調達方法が細かく記載されています。有益な一冊に仕上がりました。

若い私達で、盛り上げて行きたいですね。ありがとうございます。



紀伊の国もやっぱり猫！

にゃんこタイムズ

号外

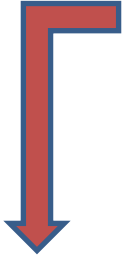


猫じゃらし、ジャストジャスト！

カメラは捉えた！

おまけ

ニヤイキ？



「いやあ、びっくりしました。まさか、プライドの高いこの子が・」。和歌山県でオスのネコを飼う男性は驚きを隠せない。

上の写真を見てほしい。雄猫ちゃんが、大喜びでじゃれていたところ、なんと猫じゃらしが顔面真ん中に「ジャストフィット」！！。

あまりのことにフリーズしている雄猫ちゃん。

「まあ、こういう自分の弱さも受け入れていく機会になつてくれれば。どっちにしてもかわいいやつです」と男性は語っていた。

衝撃の展開に絶句！

<りんどう国際事務所講座ご案内>

社労士のためのメンタル講座-事例検討

期日：5月15（金）19時から21時
ZOOM開催となります！

社労士のためのメンタル講座=講座編=

○問い合わせを多くいただいています。コロナの影響を見て、日程と場所を後日、決定いたします。

☆お申込みは sr-rindow@rindowkokusai.com まで。☆いずれも受講料は3000円